

『たすけ』の気まぐれコラム（第一回）

こんにちは『たすけ』です。今回から不定期に「気まぐれコラム」を書くことにしました。

単なる思い付きです（笑） いつまで続くか判りませんがお付き合い下さい。

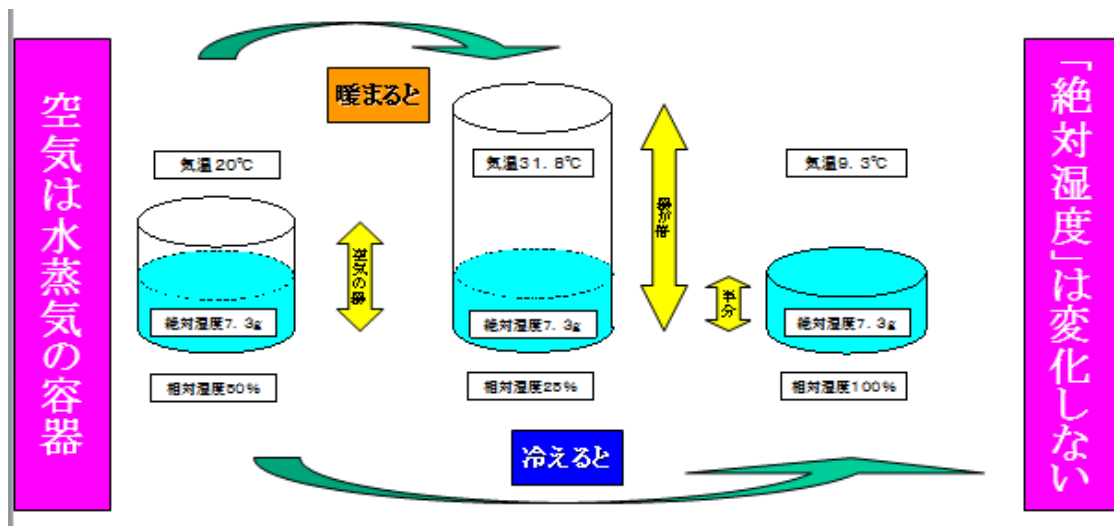
第一回目は『結露』についてです。窓のクレーム・お困り事No1が結露なんですね。

断熱リフォームを行って、結露が無くなったり減ったりすると思ってるアナタ、間違ってますよ！

そもそも『結露』って何で発生するのでしょうか。メカニズムを考えてみましょう。

空気は水分を水蒸気（目に見えません）として溜め込んでおける器（コップだと思って下さい）でこの器からこぼれ出たものが結露（気体から液体になって目に見えます）です。

実はこの器、温度（気温）によって大きさが変化します。下記の図を見て下さい。



通常皆さんが言う『湿度』とは、空気の器が抱えられる量に対し、何%の水分があるかを示します。

専門的には『相対湿度』と言いますが、この他に空気1mあたりの水分そのものの重さを示す『絶対湿度』があり、結露を考える場合はこちらの方が重要になってきます。

空気を暖めると器が大きくなり、相対湿度は下がります。逆に冷やすと器が小さくなり、相対湿度は上がります。

図の「気温20°C、相対湿度50%」とは、人間が生活するうえで最も快的と言われる環境ですが、気温9.3°Cで空気の器は満杯になり、それ以下の温度部分は全て溢れる（結露する）ということになります。（わずか11°C下がっただけで結露発生）

したがって、結露とは温度と湿度の相関関係で起こるものであり、暖かいから結露しないとか寒い（冷たい）から結露するという単純なものではないのです。

以下は次回に説明します。お楽しみに。

